



京都国立近代美術館所蔵 アイリーン・スミス・コレクションによる
W・ユージン・スミスの写真
 2009年 9月12日(土) ▼ 10月25日(日)

月曜日休館 9月21日、10月12日は開館、9月24日(木)、10月13日(火) 休館
 観覧時間 午前10時〜午後6時 最終入館は午後5時30分

会期中展示替えをします。
 前期 9月12日〜10月4日
 後期 10月6日〜10月25日

観覧料 一般500円(400円) 大学・高校生300円(250円) 小・中学生200円(150円) ※()内は20名以上の団体割引料金
 前期後期共通券 一般700円(600円) 大学・高校生500円(400円) 小・中学生300円(250円) ※()内は20名以上の団体割引料金

主催 喜多方市美術館 京都国立近代美術館

後援 福島民報社 福島民友新聞社 朝日新聞福島総局 読売新聞東京本社福島支局 毎日新聞福島支局 産経新聞福島支局 河北新報社 NHK福島放送局 福島テレビ
 福島中央テレビ 福島放送 テレビユー福島 ラジオ福島 ふくしまFM エフエム会津 喜多方シティエフエム

協力 アイリーン・アーカイブ、宝塚メディア図書館



フォト・ジャーナリズムの歴史に偉大な足跡を残したアメリカ人写真家・W.ユージン・スミス(1918-78)はカンザス州に生まれました。18歳になった1937年、プロの写真家を目指してニューヨークに移ります。『ニューズウィーク』や『ライフ』などのグラフ雑誌の発行部数が伸びをみせ、フォト・ジャーナリズムという新しいメディア・スタイルが登場し全盛期に向かう時代に活動したスミスの業績は、フォト・ジャーナリズムの歴史と重ね合わせて評価されて来ました。

従軍写真家としてサイパン、硫黄島、沖縄の戦場を直視し、戦後は綿密な取材を重ねることで、対象の本質に迫りました。あるいは時にそれを越える普遍性を追求するかのよう、すぐれたフォト・エッセイを数多く制作しました。日本にも関係が深く《日立》(1961-62)《水俣》(1971-75)を発表しました。《水俣》はユージン・スミスにとって最後の写真シリーズであるとともに、『ライフ』1972年6月2日号に発表され、同年に休刊となる同誌に最後の輝きを添えました。

本展は京都国立近代美術館 アイリーン・美緒子・スミス・コレクションより、170点の写真から写真家W.ユージン・スミスの全体像を紹介し、その活動を検証する機会といたします。

〔関連催し〕

講演会「ユージン・スミスと私」

期日：10月12日(月) 14:00~

開場：13:30~

会場：喜多方プラザ文化センター小ホール

講師：アイリーン・美緒子・スミス

聴講：無料

定員：100名

お問い合わせ：喜多方市美術館 0241-23-0404

〔展示替えのお知らせ〕

前期展示 9月12日(土) - 10月4日(日)

《第二次世界大戦》《カントリー・ドクター》

《スペインの村》《助産婦》など

後期展示 10月6日(火) - 10月25日(日)

《慈悲の人シュヴァイツァー》《ピッツバーグ》

《私の窓から時々見ると…》《水俣》など

表面左列《スペインの村》1950-51年 ©The Heirs of W.Eugene.Smith

右列《水俣》1971-75年 ©W.Eugene.Smith & Aileen M.Smith

裏面左列《第二次世界大戦》1943-45年 ©The Heirs of W.Eugene.Smith

右列上より《市民ケーン上映館の前のオーソン・ウェルズ》1941 ©The Heirs of W.Eugene.Smith/《楽園への歩み》1946年 ©The Heirs of W.Eugene.Smith/《カントリー・ドクター》1948年 ©The Heirs of W.Eugene.Smith/《助産婦》1951年 ©The Heirs of W.Eugene.Smith

《慈悲の人シュヴァイツァー》1954年 ©The Heirs of W.Eugene.Smith

《ピッツバーグ》1955-56年 ©The Heirs of W.Eugene.Smith/《アンドレア・ドリア号の遭難》1956年 ©The Heirs of W.Eugene.Smith

京都国立近代美術館 アイリーン・スミス・コレクション

喜多方市美術館
〒966-0094 喜多方市字押切2-2
tel.0241-23-0404 fax.0241-23-0406
<http://www.city.kitakata.fukushima.jp/bijyutsukan/>

